

2009年11月発行  
 (平成21年11月)  
 千葉県立匝瑳高等学校  
 同窓会事務局  
 〒289 2144 千葉県  
 匝瑳市八日市場イ 1630  
 TEL .0479 72 1541  
 FAX .0479 73 6146  
 代表：川口明和

## 地井武男さん(高12) 母校訪問

＝ 8月3日「ちい散歩」の収録で ＝

関連記事 9ページに



玄関で地井さん(左)と対応する猿渡教頭(高26)



当時の面影を唯一残す天文気象部部室前で  
 スタッフに説明をしている地井さん

平成21年度定例総会は、六月二十八日(日)に母校西城館にて午前十時より開催。加瀬会長、杉浦校長の挨拶に続き前年度決算、本年度予算案が承認され、新会長に川口明和さん(高17)が選出された。また次期会長候補としての副会長には、鈴木勝彦さん(高18)を選出し、他の役員も全員承認された。なお、総会席上で、江

畑魁さん(高2)に感謝状と記念品を、また岩瀬藤作さん(定昼1)には花束が贈呈された。総会終了後、小川和之さん(高17)により「デジタル放送時代のテレビとラジオ」との演題のもと、昨今の話題について、情報機器を使用して、わかりやすく説明された。その後、梅田家に会場を移して、懇親会が行われた。

**平成21年度  
 定例総会終わる**

新会長に **川口明和さん(高17)**  
 次期会長は **鈴木勝彦さん(高18)**



今年も会場に飾られた生け花

# 更なるより良い環境作り

## 会長 川口明和(高17)



同窓会の皆様には、益々ご健康のことと拝察いたします。

この度、六月二十八日の総会において承認を得て会長に就任いたしました。浅学非才なものが大役を引き受けましたので、ご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

私は母校である匝瑳高校が大好きです。母校を心から感謝し愛しております。現在でも当時のことが、大変懐かしく思い出します。卒業された皆さんは各方面でそれぞれにご活躍されていると思います。

同窓会は同じ学び舎を卒業した友の集まりで、同じ高校生(私の時代は校舎全体が鳥で包まれておりました)、校庭、机、先生で勉学に部活に切磋琢磨されてきた皆さんです。

歴代の会長、役員、会員の皆さんが八十五年間母校の伝統を継承して守ってきていただいたことに敬意を表すものでもあり

ます。今、同窓会は親睦だけでなく学校支援に力を傾注しております。その内容については同窓会報「さふさ」や「ホームページ」でお伝えさせていただいております。

現在の匝瑳高校は素晴らしい生徒が集い「至誠、剛健、快活、高雅」の校訓の下に持てる力を学習、部活動、学校行事にと一杯発揮し、進学・部活動に実績を出して頂いております。私は、在校生の方々のために勉強に部活動に「更なるより良い環境」作りが出来ることを願っております。

卒業生、匝中1回(昭和4年卒)から高61回(平成21年3月卒業)まで二五、八四四人の力を結集して在校生のための更なるより良い環境作りをしようではありませんか、それには同窓会活動の目的に大義名分が必要ではないでしょうか。

同窓会活動になりえる目的、これは私の「思索」ではありませんが、次なる歴史と伝統を未来に継承していつて頂ける在校生のため「匝瑳高校同窓会奨学資金制度」創設ではないでしょうか。この制度は本校に在学する

生徒で学業・人物に優れた家計の状況等に経済的な援助を必要とする生徒に同窓会から給付するということでもあります。

実は、匝瑳高校人材の育成を切望されたことがありました。旭匠会(旭市支部)の総会に出席させていただいた時でした。講演者の旭市長明智忠直様(市立旭中央病院の開設者)は匝瑳高校に医学・医療に進まれる人を育成して頂きたいとの願いを切望されました。

このような人材育成についても、更なるより良い環境作りが必要ではないでしょうか。

新たな目的をみんまで共有するため総務部会、幹事会、特に31回(昭和54年3月卒)から57回(平成17年3月卒)の幹事さんに問いかけをさせていただきました。ご意見やアイデアをお伺いする機会を今後予定させていただきます。現に「一九、一六七人の同窓会員の皆さんが目的を一つにして、持てる力を分担して、結束して取り組む必要があるのではないのでしょうか。」

私の「思索」が今後の創立90周年の記念事業になることを期待しております。

終わりに、皆様方の益々のご健勝と母校の一層の発展をお祈りいたします。

## 平成21年度 役員一覽

会長 川口 明和(高17)  
副会長 鈴木 勝彦(高18・次期会長)

○小関 公人(高17・匝瑳会)  
○堀越 正夫(高13・旭匠会)

江畑 鎮男(高6・銚匠会)  
石井 國夫(高14・横匠会)

○渡辺 政治(高17・多古)  
土岐 四郎(高11・京葉)

伊藤 清(高10・東京)  
○佐藤 幸司(高18・干潟)

○平山 勝男(高16・野栄)  
清水 幸男(高14・飯岡)

伊藤 雅美(高6・光)  
○加瀬 操(高17・海上)

石毛 忠(高9・四街道)  
渡邊 順一(高21)

○伊知地正一(高20)  
栗田 壮一(高17)

文化部長 米本 雅男(高10)  
体育部長 小関 公人(高17)

会報編集長 馬淵 英夫(高10)  
事務局長 岩瀬 道治(高24校内)

顧問 加瀬 茂(高27校内)  
杉浦 雅美(校長)

顧問 猿渡 末治(高26・全日制教頭)  
東城 孝(全日制教頭)

石原 修(定時制教頭)  
齋田 完(事務主幹)

参与 加瀬 武彦(高16・前会長)  
(従来の方々に加え)

支部推薦の副会長は、支部で変更された時点で変更になります。  
○印新任、他は留任。

### 平成21年度 一般会計予算案

自 平成21年4月 1日  
至 平成22年3月31日

#### 1. 収入の部

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
会 費	5,500,000	5,000,000	500,000	
入 会 金	1,038,000	1,035,000	3,000	全322 + 定24
繰 越 金	898,029	4,241,274	3,343,245	
寄 付 金	250,000	500,000	250,000	
雑 収 入	200,000	10,000	190,000	名簿売上 (1冊4,000円) 銀行利子
計	7,886,029	10,786,274	2,900,245	

#### 2. 支出の部

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
会 議 費	460,000	750,000	290,000	総務文化幹事会 支部
事 務 費	220,000	650,000	430,000	事務通信費 印刷費
旅 費	30,000	70,000	40,000	会務旅費
慶 弔 費	200,000	300,000	100,000	役員 母校職員等
振込手数料	60,000	70,000	10,000	会費振込手数料
会報発行費	4,500,000	6,000,000	1,500,000	印刷費, 発送費 編集会議
補 助 費	1,000,000	1,200,000	200,000	部活動補助 文化祭補 助 教育活動の補助
学校支援費	1,000,000	1,000,000	0	母校教育活動への 支援
H P管理費	400,000	350,000	50,000	ホームページの管理
積 立 金	0	0	0	
予 備 費	16,029	396,274	380,245	
計	7,886,029	10,786,274	2,900,245	

### 平成20年度 一般会計決算書

自 平成20年4月 1日  
至 平成21年3月31日

#### 1. 収入の部

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
会 費	5,000,000	4,549,000	451,000	
入 会 金	1,035,000	1,032,000	3,000	全319 + 定25
繰 越 金	4,241,274	4,241,274	0	
寄 付 金	500,000	409,000	91,000	高校15回生一同様 より 10万円他
雑 収 入	10,000	1,171,689	1,161,689	名簿広告 名簿売上 銀行利子
計	10,786,274	11,402,963	616,689	

#### 2. 支出の部

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
会 議 費	750,000	453,847	296,153	総務文化 幹事会, 支部
事 務 費	650,000	195,669	454,331	事務通信費, 印刷費
旅 費	70,000	28,500	41,500	会務旅費
慶 弔 費	300,000	173,500	126,500	役員, 母校職員等
振込手数料	70,000	55,830	14,170	会費振込手数料
会報発行費	6,000,000	7,219,549	1,219,549	印刷費, 発送費 編集会議
補 助 費	1,200,000	1,006,767	193,233	部活動補助 文化祭補 助 教育活動の補助
学校支援費	1,000,000	960,932	39,068	母校教育活動への 支援
H P管理費	350,000	410,340	60,340	ホームページの管理
積 立 金	0	0	0	
予 備 費	396,274	0	396,274	
計	10,786,274	10,504,934	281,340	

#### 3. 収入 - 支出対照表

収入額	支出額	差引残高
11,402,963	10,504,934	898,029

振替口座	99,749
郵便口座	635,250
手元現金	163,030

次年度へ繰越

積立金 32,500,000

総資産 33,398,029

前年度総資産 36,741,274

総資産の増減 - 3,343,245

### 事務局より

総務部会で毎回のよう  
に要望が出されているこ  
とですが、さふさ編集委  
員に、高校20回卒以後の  
方々の参加が切望されて  
います。ちなみに今年の  
卒業生は全日制で61回、  
定時制で55回です。編集  
の仕事は今のところ年二  
回の発行で、年に六日か  
ら八日、匝高で企画、割  
付、校正などをしていま  
す。特別な資格は何もい  
りません。唯、ボランティア  
です。ですから無報酬です。  
少しでも関心のある方、  
あるいはそういう方を御  
存知の方は事務局（匝高

数学科 岩瀬道治 0479  
72 1541 匝高事務局）ま  
で御一報下さい。はがきで  
も結構です。  
尚ホームページ運営委員  
会で、運営委員を募集して  
います。運営委員になつて  
「交流ひろば」などを大い  
に活性化させて下さい。又  
文化部でも部員を募集して  
います。文化部では同窓会  
総会や匝高の篤陵祭を中心  
に活動していますが、部員  
の個展などの紹介、交流な  
どもしています。又、同窓  
会ホームページの活用も視  
野に入れていきます。お若い  
方々も是非参加して下さい  
事務局まで御連絡下さる  
ようお願いいたします

記念講演

デジタル放送時代のテレビとラジオ

小川 和之



放送のデジタル化は世界の潮流

アナログからデジタルへ、音楽やビデオなどあらゆるものがデジタルの時代に入り、放送と通信の融合が進む中で、欧米をはじめ世界的に放送のデジタル化が推進され、現在世界の二十以上の国と地域でデジタル放送を実施している。

デジタル放送の特徴とサービスイメージ

実、放送と視聴者との双方向サービスなどデジタル放送ならではの多彩なサービスを楽しむことが可能になる。放送のデジタル化の必要性日本の電波はもうこれ以上隙間も無いほど過密に使われ足りなくなっている。この現状を解決するため、デジタル化によって周波数を有効活用することが大きな目的のひとつ。デジタル化によって余裕が出来た電波を通信など他の目的に使えるようになる。完全デジタル化に向けたスケジュール

創立以来十二年間、初代校長として校訓の制定を始め校歌を作るなど苦心の経営をされた草野金松先生のと、二代目校長田中勝夫先生の着任は昭和十一年四月であった。着任するや新校長は、共々に運動学科最後まで“のモツト”を掲げられ、私を見るところ校訓の中で一番欠けているのは剛健であろうと指摘され、これからは大いに剛健の気風を高めて行こうと喝破された。

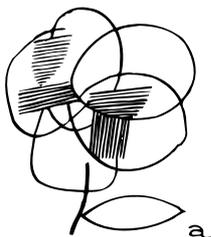
そして先ず手始めに全校マラソンを実施し自ら率先してランニング姿で一緒に走られた。校長が真つ先に走られるので各教科の先生方も一斉に参加するようになり、これに勢いづくように生徒の方も懸命に走ったものだった。体操の時間と同じように、風邪引きなどの見学者もいたが、単に残って何もせずにいる事は許されず、団体で三千口位のところ歩くのが常であった。

田中校長になって初めて県下中等学校マラソン大会に、川口重夫(中10回当時四年生旧姓宇井)が優勝し六位の宇井貞文(中10元八日市場市教育長)らの活躍で団体も優勝し、田中先生にとっては幸先の良いスタートとなった。私の入学した昭和十二年になると、先ず新入生歓迎マラソンに始まり、翌年三月の卒業生送別マラソンに至るまで年度内に十回以上の全校マラソンが行われていた。

田中先生は運動学科最後までこの目標のもと、マラソン大会のために授業を休むことは一回もなく、すべて放課後にこれを行った。そして私の卒業まで一年だけ落ちこんで県下六位などという時もあったが、いつも優勝するか、二位にでもなるとほんとうに負けたアと言う気分になったものである。

それが近ごろは滅多に優勝の言葉を聞かなくなったのはOBとしてはまことに寂しい限りである。在校生諸君の精進努力と奮起を促したい。

品村 晃祥(中14)



校史 探訪

全校マラソン

# 支部総会報告

## 【東京支部(匠東会)】

四月十八日(土曜日)東京市谷の私学会館アルカディアで第十一回匠瑳中・高校東京支部同窓会総会(会長伊藤清10回卒)が開かれた。

嵐山光三郎の短編作品「同窓会奇談」に次のようなくだりがある。「人々が同窓会へ出かけて、交錯した時間の糸をたぐり寄せ合うのは、昔の自分に出会おうという無為の作業である」

この日、年長組は昭和十七年(中14回)卒の木川統一郎先輩、年少組は平成元年(高41回)卒の遠藤正和さんまで縦系列の校友一〇八人が集まった。横並び減数あるのみのクラス会は有限だけれども、わが匠東会は果てしなくながく続くことを如実にしめしたことに……。それにしても私も含めて、七十歳前後の校友が出席者の七割を数えるのは時代の移り変わるいきおいを感じさせる光景である。私たちは同窓、同郷という



だけで打ち解けた。共通の時代背景の中に、あの校歌のもとに、友人たちとともに生きた「もう一人の自分」を見る「無為の作業」が身にしみるのでありました。

そういう機会を今年も作ってくれた匠東会のお世話役に感謝し、また同窓会の形を格あらしめるに、新学期の多忙の中、遠くから馳せ参じられた新任の杉浦学校長をはじめ来賓の方々の来駕に改めて謝意を陳べたいと思います。

## 今年の言葉は「醸す」

伊藤清会長は、今年は「醸す」という言葉をキーワードにしよと提案した。スローがもてはやされる健康志向の時代、美味しくて平和的で、文化・伝統的な響きの含蓄ある言葉であるが、会長としてわきまえた言であれば同窓・校友間に「より親しみの感情を醸す」という意志に違いない。

いまやガソリンだって、ブルジルではその四割を発酵で作られるという時代になった。醸さないのは物議だけ、今年も賑々しく匠東会を醸してくれることを願っている。

## 大原幽学の二つ

招待講演で伊藤忠良旭市長(定夜9回卒)は郷土の誇りとして大原幽学をあげられた。幽学について系統だった話を私は知らなかつたので、ますます刺激的な話として拝聴した。

ちょうど田植えの季節、現在のように整然と一直線に、縄を張って田植えをするようになったのは幽学の指導をもつて行われるようになったと

聞いたことがある。そのあたりのことを学習しに行つてみたい気持ちになった。まだまだ乱雑に田植えしていたころが、世界のあっちこつちにあるのに……。

平山 豪(高10)

## 【四街道支部】

四街道支部同窓会第十一回総会開催について

七月十二日(日)十二時三十分から四街道文化センターにおいて、四街道支部同窓会第十一回総会が開催された。

母校から杉浦雅美校長、本日から川口明和会長(高17回)、岩瀬道治本部事務局長(高24回)が出席され、支部

会員三十一名参加のもとに母校及び同窓会の近況について報告があつた。

総会に先立ち、講演会を開催し、現在、四街道市文化財審議会委員・四街道市史編纂執筆委員・東京情報大学・拓殖大学・清和大学非常勤講師の宮田正一氏(高13回)に、「地理的見方・考え方」と題して、講演していただいた。

地理的事象を距離や、空間的な広がり留意して考えること。例えば北海道の函館、

札幌間は地図上では簡単に行ける距離に感じられるが、実は318kmもある。北海道を本州の上に乗せると、関東甲信越・中部がすっぽり収まってしまう広さが見えてくる。さらに世界に目をむけると、日本は「手」の文化で「農耕民族」「多神教」「信頼」「和」の世界、「恥の文化」、欧米は「足」の文化で「狩猟民族」「遊牧民」「一神教」「不信の契約」「社会」「罪の文化」である等々、「手や足」に対する扱いを掘り下げ、「宗教」「スポーツ」「長さの単位」や「自然の利用」についても、日本と欧米の違いが明確に見えてきた講演でした。

総会では、支部の活動報告並びに新年度事業計画の報告等が承認され、会長には引き続き石毛忠氏(高9回)が承認された。

続いて懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で話も進み石田寛氏(高2回)が「古希を寿(コトホ)く」と題し、七十歳を迎えたのは実にすばらしいことだという内容の詩吟が朗詠された。最後に匠中・高の校歌を全員で合唱し会を終了した。

【京葉支部】

五月十六日(土) 正午より  
ホテルミラマールにて開催  
土岐四郎氏(高11)支部長再任

【飯岡支部】

五月二十三日(土) 四時より  
玉の浦食堂にて開催  
清水幸男氏(高14)支部長再任

【光支部】

五月二十四日(日) 二時より  
光町民会館にて開催  
伊藤雅美氏(高6)支部長再任

【横芝支部】

六月十四日(日) 十一時より  
富士屋にて開催  
石井國夫氏(高14)支部長再任

【多古支部】

八月 八日(土) 六時より  
万勢庵にて開催  
渡辺政治氏(高17)支部長新任

【干潟支部】

八月二十日(土) 六時より  
嘉儀屋にて開催  
佐藤幸司氏(高18)支部長新任

【野栄支部】

八月二十二日(土) 六時より  
野栄望洋荘にて開催  
平山勝男氏(高16)支部長新任

【海上支部】

八月二十八日(金) 六時三十分  
傳兵衛にて開催  
加瀬操氏(高17)支部長新任

【旭匠会】

八月二十九日(土) 二時三十分  
旭楼にて開催  
堀越正夫氏(高13)支部長新任

【匠陵会】

六月十一日(木) 七時より  
吾妻庵にて開催  
小関公人氏(高17)支部長新任

同期の集い

中16・充緑会

充緑会総会を終えて想う

平成二十一年五月十日、八日市場「百木屋」で第四十七回「充緑会」総会が開かれた。参加者は二十二名であった。我々は匠瑳中学校第十六期生として太平洋戦争のさなかの昭和十九年二月二十六日に卒業した。充緑会の名称はこの「十六」期に因んだものである。

永い人生の中の僅か五年間机を並べた同期の会が、何故かくも長く続いているのか。担任などでお世話になった先生方は既に故人となられたが教室での教科学習のあれこれ



全校マラソンを走り通した達成感、厳しい軍事教練・夜行軍、必死に頑張った棒倒し、汗にまみれての勤労奉仕等々

数々の思い出が混じり合っ一種の学年の気風が作り出されてきたのである。これが木の根のように級友の間に張りめぐらされて、この会の続く素因となっているように思う。加えて、会長初め事務局や各地域の世話役の献身的な協力があってこそであろう。

昭和三十四年八月に同期会

昨年よりも参加者がだいぶ増えたことである。

会は例年の通り記念写真の後、この一年間に亡くなられた友の冥福を祈つての黙禱に始まり、運営委員会代表の挨拶、事務連絡の後に乾杯に続き会食を兼ねての懇談。懇談の合間に参加者全員のテーパースピーチが和気藹々裡に進み、力一杯校歌を合唱して終わり、来年の再会を約して散会した。

石毛 久義(中16)

匠瑳21・1同期会

平成二十一年五月二十四日 日曜日の午後三時半、八日市場駅前の「梅田屋」で、恒例の同期会が開催された。出席者は二十八名、昨年に続いて過去最少の記録更新である。

この一年間に、鈴木敏之さん、鈴木幸之助さんが逝去された。敏之さんは同期会参加の常連、幸之助さんは昨年奥様同伴で参加されたのが最後になってしまった。これで物故者は六十四名となった。

ご冥福を祈って黙禱する。新しい参加者はここ三年間一人もいないが、今回兵庫県から秋葉さんが三年振りに出



席してくれた。また、有田さんは長い闘病を克服されて九年振りに参加するとの返信であつたが、当日体調急変で欠席になってしまった。一日も早い快復を祈念する。

欠席者には腰痛や脳梗塞などの後遺症が多い様である。リハビリに努められ何とか参加できる様に快復を祈るばかりである。また、趣味や社会活動で忙しく欠席という元気な人もいる。羨ましい限りであるが、できれば日程調節で

同期会にも参加して欲しいものである。益々のご活躍を期待する。

やっと日本男子の平均寿命に到達した。これからは早世した友の分を稼がないと平均値が低下してしまう。存続までは、という話がだがどうなることやら。

久しぶりの談話が病気や医者者の情報交換に偏るのは寂しいが、気がつけば閉会の時刻になっていた。

次回は山武地区が当番だが人手と会場の不足から辞退したいとのことで、協議の結果会場は地元で駅に近い「梅田屋」にし、幹事は各地区から出して実施する事になった

期日は平成二十二年五月二十三日（第四日曜日）である。

顔を合わせたい、語り合いたい仲間はまだ大勢いるのに残された時間は少ない。出来る限り多くの参加をお願いしたい。

平成二十一年度版の同窓会名簿の補遺に、二十五年間居所不明になっていた、林孝賀さんの住所が載っていた。

なぜ？どうして？の疑問は残るが嬉しい事である。資料を送ったので次回に参加頂け

れば望外の喜びと言えよう。期待したい。

来年は真正正銘の八十歳、できるだけ多くの友と傘寿の祝いをしたいと思う。

重ねて次回の参加を切にお願いして報告とする。

### 高7-Fクラス会

初めてのクラス会

匝瑳高校 第七回生（昭和三十年卒）一年F組（担任 林 貞先生）

お元気でですか？古希をとつて過ぎてても卒業してからまだ一度もクラス会を行っていないクラスですが、今年のなごりにと私たちが発起人となつて下記のように初めてのクラス会を計画いたしました。

お会いしても昔の面影が思い出せないとは思いますが、それもまた楽しいことではないでしょうか。是非ご参加くださるようご案内申し上げます。

（発起人一同）

日時 平成二十一年六月二十一日（日）

場所 旧八日市場市下出羽 百木屋

こんなはがきの連絡で、卒業して半世紀以上過ぎて初めてのクラス会を計画したとこ



ちろん、遠く静岡、横浜、東京、などから参加して、当時のクラス写真をもとに懐かしい青春時代の思い出に花を咲かせました。これがはじめて最後の企画のつもりでしたが、次回の幹事まで決めて、それまで健康第一にと再会を約してのクラス会でした。

（文責 澁谷 正）

### 高9同窓会

私達高9回生は、このたび七十歳になりました。

これを記念して、平成二十一年四月十九日（日）に、匝瑳市の港屋で「高9回古希記念同窓会」を開催しました。

当日は、五十二名の方が出席、初めに全員で記念撮影を行つてから、懇親会場に移り、小川又次君の司会で、これまでに故人となつた四十五名の同期生の方々に黙祷を捧げました。

続いて平山雅巳君が開会の言葉、幹事を代表して私、内藤勇の挨拶、江波戸寛君の乾杯の首頭で懇親会が始まりました。

今回、初めて出席された方も居り、在校時の思い出や、近況を語り合い、和やかに会

る、なんと卒業時四十七人のクラスメートの内二十二人が集まりました。このクラスは匝瑳高校ではじめて女子二十名男子二十七名の意図的な男女共学のクラスでした。男子だけのクラス、女子だけのクラス、共学のクラス、とクラス編成されたテストケースだったのでしよう。たまたま野栄の宇井半兵衛君の手許にあつた古文書のような当時の古い手書きの名簿をもとに、四街道在住の平山鐵博君が精力的にそれぞれの住所、連絡先を調べ、新たな名簿を作り、互いに電話連絡を取りながらの成果でした。広く県内はも

話も弾み賑やかな盛り上がりの中に、約三時間に及ぶ楽しい時が過ぎて行きました。電車の時刻の都合もあり、最後に武田光春君の閉会の言葉で再会を約して、楽しい記念の会が終わりました。

内藤 勇(高9)

### 高20同窓会

本格的な夏の到来を前にした七月四日「匠達高校20回生同窓会」を成田ビューホテルを会場として開催しました。我々高20回生も還暦を経過する年齢に至り、このことを契機とした同窓会の開催について当初は一部有志の素朴な発案から次第に大きな歯車となり、以後クラス毎に幹事が召集され、ほぼ一年をかけて開催の運びに至った次第です。

当日は恩師である品村晃祥先生、小川宏一先生、川内恵美子先生(旧姓「飯島」、小澤誠先生をお迎えし、会員を含め百八十有余名の出席を得て正午より開始されました。以下、次第に沿って大久保隆章君(F組)の明快、流暢な司会により進行いたしました。まず開会に先立ち、惜しくも逝去された恩師の方々、

並びに会員のご芳名を紹介するとともに御霊に黙祷を捧げました。その後、川口光博君(G組)から開会の宣言があり、次に本会代表幹事の太田晴夫君(A組)より同窓会開催の趣旨、ご来賓である恩師へのお礼の言葉があり、次いでご出席いただいた恩師の先生方へ記念品(A組の加瀬達郎君作陶)がクラスの代表から贈られました。その後、先生方からご挨拶を賜った次第です。そして大川勝美君(F組)の発声により乾杯の後、歓談の時間へと移り、懐かし友の顔にナイスなミドル、四十余年の歴史も感じながら、



また、鶯の校舎に学んだ有りし日に戻ることができ、楽しくまた有意義なひと時を過ごしました。宴も進み全員で高らかに校歌を斉唱し、ピアノ伴奏 小安代志子君(H組)、閉会の言葉を香取(B組)から申し上げ、恩師並びに会員各位のご健勝、ご活躍、及び再会を祈念しながら締められた次第です。その後クラス別に分かれての懇親会に移行しました。

この度の同窓会の開催を振り返るに、恩師であられる品村先生の御挨拶の中に「このように多くの出席者に恵まれた同窓会を、私は知らない」という旨のお言葉をいただきました。幹事一同には、一足早い梅雨明けの心地でした。最後に、ご臨席を賜った恩師の先生方を始め、ご協力をいただいた全ての方々、並びにホテルの好意に対し深く感謝したい。

香取 克男(高20)

### 高51同窓会

卒業十周年記念学年同窓会 皆さんこんにちは。高51回卒業生(一九九九年三月卒業)の山崎宜大です。去る平成二

十一年九月二十日に高校卒業十周年を記念しまして、千葉駅ビル内にあります「ペリエホール」を会場にし、学年全体の同窓会を開催しました。そもそも同窓会をやるうとしたきっかけは、友人達と同窓会の話をしましたら盛り上がってしまい、酔った勢いもあり、そのメンバーで幹事をやることになりました。

最近では同窓会の幹事代行サービズがあり、インターネットにて「同窓会 代行」のキーワードで検索されました業者に依頼をしました。業者と連絡を取りあった関係で、そのまま代表幹事に。応募期間中は参加者が伸び悩み、不安になった時期もありましたが、最終的には恩師三名を含めて百名を超える参加者が集まりました。

当日は十年振りに会う友達が多かったにも関わらず、会話に尽きることはありませんでした。懐かしい教室にでもいるような感じで、会場は笑い声と酒と暖かい雰囲気であまれました。再会を惜しむように多くの人が二次会にも参加してくれました。

最後に、「誰かがやってく



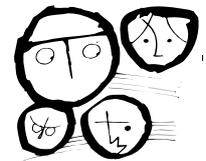
れるだろう」の「誰か」にすることは楽ではありませんでしたが、数日は心地良い感動がしばらく続きました。次回は十年後の予定ですが、私は十年待てる気がしません。もし同窓会をやるうか迷っている方がいましたら、私達のように代行業者を使えば、幹事の負担は最小限に抑えられます。ぜひ一歩前へ踏み出して、久しぶりの再会と感動を味わって頂けたら幸いです。

山崎 宜大(高51)

# 母校訪問

「ちい散歩」の散歩人

|| 地井武男さん ||



思わず力が入る後輩への指導



番組のための絵を描く



ひさしぶりにやってみるか。この後、熱血指導



いつのまにか集まった後輩たちと

地井武夫さん(高12)が、毎年訪れている祇園祭りの前日、番組収録のため、母校を訪問。  
 当日、校内を案内した猿渡末治教頭(高26)の話によるとスタッフを含む一行は驚くほど大勢で、市の広報課も同行していたこともあり、訪問者の数は極めて多かったとのこと。  
 地井さんは、玄関の蔦の葉からむ旧校舎の写真に興味を示し、また、当時の姿を残している天文気象部の部室前では往時をしばし懐かしんでいた模様。  
 ソフトテニスのコートでは、ほんの少しの予定がいつの間にか熱血指導。終わって後輩たちと記念写真も。番組恒例のエンディングの絵を描くため、選んだ教室が三年F組。高校時代、自分もF組であったことから。その絵は、午前中訪れた市内の木積地区の伝統工芸「箕」づくり。これは今年、國の重要無形民俗文化財に指定された。  
 なお、この模様は8月24日、テレビ朝日系列で放映された。



ソフトテニス部の後輩たちと記念写真

### 匝陵無線クラブ

(平成第4回)開催

台風18号が本州通過中の、10月8日正午、5年ぶりに匝陵無線クラブの平成第4回OB会を梅田屋で開催する。

(匝陵無線クラブの詳細は、「さふさ」24号に掲載されているので参照されたい)

「Progress of Radio Club」1号の復刻版完成を機会に、H13年6月6日、50年ぶりに開催(11名参加)、15年7月29日(10名参加)と、16年10月16日(21名参加)にも3号



平成第4回・匝陵無線クラブOB会 2009.10.8 梅田家

・6号の復刻完成で集まる。その後しばらく顔を合わせなかつたので、そろそろゴールが近づいたことだし、と今回の開催となった。

38名に案内し返信なしが3名、16名が参加予定であったが台風の影響でJRが動かず2名が足止めの欠席、体調が原因の1名と合わせて不参加3名、出席13名となった。

前回参加していた平山禮正さん(高6)が、H21年7月22日に逝去されたこと奥様からの返信がありました。謹んでご冥福をお祈り致します。

古希が最年少というメンバーでは、健康に問題を持つ人も多い。呼びかけに応えて参加できることは大変幸せなことだと痛感する。

中21回から高11回まで10年の差があつても、同じ趣味を階段下の部屋で過ごした青春

は、卒業以来半世紀を越す人生に何らかの関わりや影響を受けている人も多いようで、往時・経過・近況の話が交わされて時が過ぎた。

ゴールの近づいたOB会は何れ幕を引かねばならない。返信に、次回は参加を...と楽しみにしている人もあり、間を置かず来年も集まる機会をつくる事を決めて午後3時台風一過、快晴の空を見上げながら解散する。

- 《参加者》 大木喜好(高4) 片岡 工(中21) 武田重善(高4) 林 秀夫(中21) 吉田公生(高4) 大関 正(高1) 伊橋幸雄(高5) 大関正己(高2) 林 磐(高7) 鈴木茂陽(高3) 米本雅男(高10) 飯島信雄(高3) 越川孝雄(高11)
- 《追記》「PRC」の原本と復刻版は西城館校史資料室に展示されています。
- 文責・大関 正(高1)

### 保健・看護・福祉・教育の集い

### 「つたの葉会」開催

～岐阜県立看護大学平山朝子学長を囲んで～

平成21年9月22日(日)、杉浦校長先生や川口同窓会長さんのお言葉をいただき、第

四回「つたの葉会」が開催されました。

例年は外口玉子先生を中心



が過ぎました。県の為の大学という強い意識で、同大学の全教員を現場に出向かせ様々な分野で共同研究というかたちで岐阜県の看護の質向上に貢献されています。現場重視の教育を実践され、理想的な大学運営をされていると思えました。又、千葉県に戻ってくれないかなあと羨ましい限りでした。

席上、外口先生との意見交換も面白かったです。高校時代は二人共どんな学生だったか覗いてみたい気がしました。お二人への質問や意見交換など大変活発でした。保健師、助産師、看護師、養護教諭、栄養士、ケアマネージャー、看護教員など様々な職種や6回生から45回生迄幅広い年齢層の人達が一同に会し、他職から得られる貴重な意見交換があつて有意義な時間になりました。この会からのネットワークが有効に機能しているのは頼もしいです。

に、喧々諤々、白熱したお喋りをしていましたが、今年平山朝子先生をお迎えする事が出来ました。外口玉子先生に紹介していただきながら、平山先生のお話をうかがいました。お二人共東大に進み、日本看護界のトップリーダーとして現在も活躍されています。平山先生を称して「カミナリの...」と言われる程、文科省から一目置かれている人物だそうです。千葉大学看護学部退官後、岐阜県立看護大学学長に就任されて十数年

今回、平山先生に初めてお会いする人が多かつたのですが、いろいろお話を聞く事ができました。平山先生としては、実家近くで、気のおけな

仲間（同窓生）と感じて話して下さったのかも知れないと思いましたが、「同窓」という力は凄く思いました。今回出席できなかった方、来年（平成22年8月22日予定）は是非出席して下さい。

渡辺千恵子（高18）

## 私にも一言

江畑 魁（高2）

昨年二月（平成二十二年）には、匝瑳市市長選挙が実施される。八日市場市発足以来、第八代布施章市長（匝瑳中学1回卒業生）まで、八日市場市の市制は我々匝瑳高校の先輩によって運営され、東総地区の中心として発展して来た。

然るに、昭和六十一年四月以来今日に至るまで二十四年間、匝瑳高校の地元の八日市場市から匝瑳市は、我々同窓生以外の市長により運営されて来た。この間、私はこの地に居住し地域の変遷を見て来たのだが、当市が著しく発展したとは、とても思えないのである。旧態依然、どちらかと云えば過疎化と市街地の荒

廃などが目立つばかりである。

その原因、理由は何であったかを考える時、高い見識と強力な指導力を持った市長の元に、市民が一致団結して街の発展に協力努力して来なかったからであると思う。

ではどうする。私は次期の匝瑳市長は、地元匝瑳高校の卒業生で、高い見識と強力な指導力を持ち、清廉潔白で多くの市民の信頼と尊敬を得られる優秀な人材が次期市長候補として名乗りを挙げて呉れる事が望まれるのである。現市長も立派な後継者が出馬して呉れば、次期には引退したいと表明している。但し、匝瑳高校出身者なら誰でも良いと云う訳には行かない。我々同窓会は、市民の尊敬を得られ優れた指導力のもと、匝瑳市の発展に寄与してくれる人材を選ぶ必要がある。雨後の竹の子のように、吾も我もと林立すれば、他者に漁夫の利を得られてしまう事もあり得る。

そこで私は提案したい。兼ねてから母校匝瑳高校の発展に心を寄せ、責任を負って来た人達、すなわち同窓会会長経験者や有識者が中心となつて、仮称『次期市長候補選定委員会』なるものを設立し、候補者自身の見識ばかりではなく、広く第三者の見識を取り入れ、全市民の賛同を得られる立派な人材を次期市長候補として推薦すべきだと提案

する者である。その結果、匝瑳高校同窓生が次期市長に選出されたならば、同窓生が一致団結して匝瑳市の発展に責任を持って新市長に協力し、匝瑳市の発展に寄与出来ると思考するものである。諸賢の賛同をお願いいたします。

## ご覧下さい 初コラボ作品

同窓会員の皆様

初めまして、こんにちは!! 私は今九十七年に卒業した寺尾と申します。この度投稿させて頂きたくお手紙させて頂きました。

今、私はイラストレーターとして活動を始めたばかりです。同じくして、同級生の大櫛（旧姓岩内）雅子さんもシンガーソングライターとして活動を始めました。二人の初めてのコラボ作品ができましたので、投稿させて頂きました。

今回は大櫛さんの娘さんが飼っていたヤゴの死を悼んだ詩のイラストを、私に任せて

卒業後もこのような形で共に活動できるのを嬉しく思います。匝高に入学したおかげですよね!! 初コラボ作品を同封させて頂きましたので、どうかご覧ください。長々とすみません。よろしくお願ひします!!

それでは、暑い時期がやって参ります。お体ご自愛下さい!!

失礼致します。 二〇〇九年七月

寺尾めぐみ（高49）  
大櫛 雅子（高49）

くれたのがきっかけでした。 駆け出しのシンガーソングライターとイラストレーター、



シンガーソングライターの大櫛（岩内）雅子（高49）さんの詩 イラストレーター寺尾めぐみ（高49）さんのイラストによる初のコラボ作品

# 校史探訪 《自治会》

平成20年6月22日、同窓会総会の席で、高2の大関正己さんから「珍しい物が見つかった」と言って、3枚のコピーを頂いた。

昭和23年9月、11月に発行された、匝瑳高校自治会報の1、3号で、今から丁度60年前のものである。

匝瑳高校自治会は昭和23年6月22日に創立総会、7月15日に立候補による会長選挙が行われ、7月16日に副会長、書記、会計が選出されて組織が整った。

自治会報は、新生自治会の広報として発刊され、その巻頭に顧問の先生方が寄稿されている。

軍国教育から民主教育への大転換で、手さぐりで始まった自治活動へ、先生方の信条が伺えて興味深いので紹介する。

匝瑳高校自治会報 第一号(昭和23(1948)年9月22日発行)

## 自治会報の発刊に際して

顧問 小川 秀雄

本校学生自治会が逐次その体制を整えて活潑なる活動に入り、ここに自治会報誕生の運びになったということは誠に喜ばしい事である。

自治会の発足以来役員諸君その他一部会員の犠牲的努力は誠に涙ぐましい真剣なものであった。今日の運びまで育んで来たのは全く諸君の賜で

望み難い。会員の一人々々が

之をよそごとという態度をとらず、自らの学窓生活をどうすべきかということ、自治会をどうすべきかということ

とは、全く一つのことであり、自分自らの手で自治会を営む

のであるという気概を持って貰いたい。自治会がどうあるべきかという批評でなく、どうすべきかと云う計画こそ大切であり、そこに潤いのある

幸福な正しい諸君の生活が設計されてくるのであろう。

特に先般ブラウン氏が云われた通り、校友会というもの

も一日も早く発展的解消をして自治会の中に吸収され、正課外の学生活動の一切が自治

会の手によって企画され経営される時が来るべきである。

これは当然でもあると共に、客観的に見ても必然であるという事を知る要がある。但し

確固とした計画方針を立てずに、漠然と今のままの校友会を今のままの自治会に移行す

るといふお座なりな行き方をとるならば、実行上の大きな不便不都合や、乃至会員間相互の不和紛糾という場合すら

予想されぬこともない。各自

が過去の校友会の長所と欠陥とをよく検討し、その仕事なり活動方法なりを如何なる形

に変えて、之を自治会組織の上に融け込ますべきかを充分に考えて貰わねばならない。

仕事そのものも漠然とした校友会の引き続きでなく、学窓生活についての諸君の理想

と社会の現実乃至現下の経済情勢等をよく睨み合わせて、根本的に考え直し且つ相互に

匝瑳高校自治会報 第二号(昭和23(1948)年10月22日発行)

## 最近の自治会

顧問 守屋 謙三

あらゆる批判は禁ぜられて只、命令のままに動かされた過去は終戦と共に葬られ、開放された時が来た。時代の流れと共に過去への懐疑は自覚となり、自由をもとむる声が学校にみちみちた。

新しく学校に自治の時間が設けられ、活気ある討議が交わされ、自己を縛っていると感ぜられた、いろいろな規制は改正された。学校の行事も授業以外のことは、多く生徒

自己だけの立場や境遇や趣味

意向のみを固執せず、大衆的立場から譲り合つて融然と動いてゆく心構えが望ましい。

ここに又所謂ボス的存在や黒幕的存在の発生せぬ様、諸君一人々々の真剣な強さが要求される。そして自由に云い、

この会報等でも自由に書き、正しき言葉が採り上げられて行われる自治会を、公正な会員の総意で盛り上げてゆくことを望む。

の企画によって進められる様

になった。生徒は己の権利を要求するに急な余り、稍もすれば言論に、行動に、節度を失う点もあつた。然し、その

意気は高く評価せらるべきであつた。

初、今年度は役員の非常なる努力により、学生自治会が

正式に誕生し、会則は定められ、会長以下各役員が選出せられた。会報も発行され自治

会の形が整えられた。にも拘

わらず最近の学校はどうであ  
るうか。自治の精神が失われ  
つつあるのではないか。無気  
力と無関心が学校を覆ってい  
る様に感ぜられてならない。  
各学級は学級自治会も活潑に  
やられているだろうか。如何  
にこの虚脱した現状から脱却  
するか。これは重大な問題で  
ある。第一号に校長が述べて

## 顧みて望む

顧問 鶴沢 定一

平和の風が吹いた。自由の  
鐘が鳴り世が漸く平成に戻っ  
た頃、あれは昭和20年の今頃  
だと記憶しているが、県下の  
トップを切つて代議員会を創  
設した。代議制度の性格につ  
いて一くさりやってみて、何  
とかして自主的な自治活動を  
促したいと努力したつもり  
だ。先生方にも懇切な指導を  
仰いだ。そういう本校独自の  
代議制による自治会が出来て  
から(無論それは整備された  
ものであったが)その後、そ  
の筋の指示もあり、年代わり  
名も代わり、評議会となり、

居る様に、次年度は校友会が  
自治会に包含される。如何に  
改組し、如何に採入れるか、  
これも大きな宿題である。そ  
してそれは自治総会にかけて  
決定すべきであろう。その前  
に生徒全員はこの問題を大い  
に研究して置くべきである  
と思う。

匠瑛高校自治会報 第三号(昭和23(1948)年11月22日発行)

の毒な会員が居りはせぬか心  
配だ。会議は他人がやるもの  
と決めてしまつて、吾閉せず  
焉と云う連中だ。こんなのは  
その内容の是非が解らなくとも  
も関心だけは有つて居る野次  
馬にも劣ると云えるであろ  
う。私は敢えて野次馬を褒め  
るのではないが、尠くも会議  
に充分関心を有つて貰いた  
い。そつでなければ、事柄に  
よつて会議が機械的に運ばれ  
ると、何処に持つて行かれる  
か解らない。ネオファツシズ  
ムと云う事がある。戦時中の  
東條幕府と何等変わる事な  
い、少数独裁に陥ることを恐  
れる。

思想上の問題にしる、その  
他、目前に色々の問題が山積  
している。今こそ諸君は目を  
醒まして行くべき秋だ。

しゃべれなければ、しゃべ  
らなくともよい。書けなけれ  
ば、書かなくともしかたがな  
い。尠くも決議の一票に対し  
ては、充分判断の出来る力と  
関心だけは望むものである。

そして、早く顧問などと云  
うものはいらない、真に自由  
な心配のないものにしたいた  
いのだ。

### 【注記】

小川秀雄先生(第五代校長)  
(S 20年7月25日)

S 25年3月31日)

守屋謙三先生(数学)

(S・16) 25年)

鶴沢定一先生(社会)

(S・14) 44年)

○当時の様子は「創立40周年  
記念誌」(288頁)に掲載され  
ているので併読されたい。

○会報原文はB4判更紙1枚  
両面ガリ版刷りで、そのコピ  
ーの判読は容易でなかつたの  
で、ミスはご寛容を……

\* \* \*

### 《追記》

第一回自治会役員選挙につ  
いて、自治会報第一号に報告  
されている。

その一部を掲載する。

\* \* \*

……〔前略〕……

7月5日 第一回管理委員会  
を開き、7月15・16日の両  
日に選挙を行う事と決定

7月10日 第二回管理委員会

を開き、選挙法細則を決定  
7月12日 立候補申請書交付  
受付開始

7月14日 正午 会長立候補  
申請書受付〆切

会長立候補者数 2名

……〔中略〕……

7月15日 会長選挙

前8・00～前9・30 選挙

運動(自由)

前9・00～前10・30 立候

補者立会演説会(講堂)

前10・30～前11・00 投票

(クラス毎)

前10・30～正午 開票

(講堂)

副会長・書記・会計、申請  
書 受付〆切

……〔中略〕……

7月16日 副会長・書記・会

計・級役員選挙

……〔中略〕……

### 《全校役員》

会長 伊谷 昭幸(高3)

副会長 加瀬 五郎(高2)

書記 土屋 壽(高3)

加藤 茂雄(高2)

土屋 壽(高1)

鈴木 康史(中3)

會計 須合 利夫(高3)

伊藤 博(高2)

寺口 一郎(高1)

有田 哲(併中2)

……〔以下略〕……

他に、評議員(学級2名)

級役員(正副級長・書記・会

計)各1名が選出された。

\* \* \*

資料提供 大関正己(高2)  
復刻再版 大関正(高1)

# 巨星墜つ

昭和十二年入学生の中で陸上競技部選手として最も華々しい活躍をした鈴木和夫君（旧姓佐藤）がいる。短距離の宇野亨（旧姓佐藤）君と二人は双璧であった。当時の競技部員に五人の同級生がいて、そのうち三人が佐藤姓だったので、我われは名前で呼び合ひ、カズオ、トオル、ハンキと言った。ハンキと書くとおかしな名だと思いでしょが繁喜という字なのでシゲキかシゲヨシと読むのだらうと思つが、本人も平気でハンキと言つていたのでわれわれもハンキと呼んだ。これはトオル君が代議士になつても変わらなかつた。

一方カズオ君は本年十月十日お亡くなりになり三人のサトウはすべて亡くなつた。カズオは中長距離の王者であり、トオルは百メートル二百メートル低障害の覇者で共に県下のナンバーワンであった。

カズオは農家出身にしては珍しく柔軟な身体を持ち疲れを知らない走り方をした。既に下級組の頃から頭角を現し千五百メートルのトップであり駅伝でも大活躍した。四年生になると千五百メートルの勇者として五年生まで県下で連続優勝した。私を相手にしていつも先頭を走り、口癖のように「おい品村おれのあとについてこい二番になれるぞ」とレース毎に言つていた。私も言うことを聞いて二位につけていた。しかし四年生の夏休みをきつかけに私はカズオに負けなくなつていた。

「おかしい、おれは品村に負けるはずはない」と不思議がつていた。私はカズオと肩を並べる完全なライバルとなつたのである。これで自信をつけ県下駅伝では一躍トップに躍り出たのだ。これも一重にカズオに喝を入れられた賜と今は感謝あるのみである。

カズオと私は二級先輩の椎名直礼（中12）さんと藤井嘉重（中12）さんに可愛がられよく米倉の家や砂原の家に泊めてもらひ、人生観やいろいろなことを教わり今も亡き藤井先輩を偲び、椎名さんに対する畏敬の念をもつて生きてゐる。私が昭和二十一年から二十五年までの千葉県選手権を始め教職員大会、月例競技会など八百米、千五百米に不敗の百連勝を遂げた際には、先輩の良きご指導に加え、カズオのおれについてこいの叱咤鞭撻があつての賜である思ひ、いまさらながらカズオに頭があがらぬ思いと感謝の念でいっぱいである。亡き友のご冥福をお祈りして筆を擱く。

- 品村 晃祥（中14）
- お悔やみ申し上げます
- ご遺族もしくは関係者から事務局にご連絡いただいた方です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- （九月三十日受付分まで）
- 萩原 基維さん（中18）  
平成21年5月13日逝去  
宇都宮市砥上町 三四七―一二
- 鈴木幸之助さん（中21）  
平成21年4月13日逝去  
多古町多古二七四四
- 岩井 要さん（中21）  
平成21年8月14日逝去  
旭市椎名内五七六
- 宇井 幹雄さん（中22）  
平成21年4月14日逝去  
匠瑳市大寺一八七二
- 鎌形 和さん（高1）  
平成21年6月26日逝去  
埼玉県新座市片山 一―三二六
- 渡辺 浩さん（高1）  
平成21年8月12日逝去  
旭市岩井九二九
- 越川 鍊三さん（高2）  
平成21年5月11日逝去  
横芝光町宮川五五〇四一五
- 行方甲子夫さん（定夜1）  
平成20年10月31日逝去  
匠瑳市八日市場
- 伊藤 卓郎さん（高18）  
平成21年7月30日逝去  
匠瑳市新堀二一九〇
- 根本 洋孝さん（高53）  
平成20年6月11日逝去  
旭市蛇園三〇八九
- 加瀬 衛さん（中4）  
平成21年9月2日逝去  
青柳 一夫さん（中8）  
平成17年7月23日逝去  
横芝光町篠本六八六
- 矢持 茂さん（中10）  
平成21年6月10日逝去  
大阪市阿倍野区阪南町 一―四四一―
- 中島 雅朗さん（中15）  
平成21年5月23日逝去  
大田区南千束三一六一五
- 秋葉 敏夫さん（中15）  
平成20年8月5日逝去  
香取市小見川一五二六一六
- 伊藤 良夫さん（中16）  
平成21年6月1日逝去  
匠瑳市八日市場水三二四三
- 澁谷 宗三さん（中17）  
平成21年7月27日逝去  
匠瑳市野手 一七―四六一―二八
- 鈴木 昭さん（中17）  
平成20年12月22日逝去  
千葉市花見川区花園 一―一九一四

# 夢

## 授業行われる

和郷園代表幹事 木内博一さん(高38)

昨年からはまった、同窓会の学校支援事業の一つである先輩による夢授業が、今年は10月13日(火)、一年生全員を対象におこなわれた。



設立。現在では、農産物の生産だけでなく、冷凍やカットといった加工からスーパーマーケットの運営まで行っている。

私が家業である農業に取り組み始めたのは22歳の時。当時、農業は人気のない職業だった。しかし、取り組み始めると、より改革できるチャンスがある産業ではないかと考えるようになっていった。そこで、目の前にある問題を一つ一つ解決していこうと産直に取り組み始め、一九九八年には農事組合法人和郷園を

講演では、私の会社のルールをいくつか紹介した。例えば「喧嘩両成敗」。仕事をしているとき、「誰が悪い、彼が悪い」という声を聞くことがある。しかし、「『誰が悪い』と言った人間も悪い」のである。その人がどう見ても悪いなという状況になってから、周りに対して「あいつは悪いだろう」という言い方をする。そうではなくて、悪くなる前に自分からその人に対して「このままだと悪くならないだろう」と言つべきではないだろうか。だから、「悪い」と言った人も言われた人も「喧嘩両成敗」なのである。

### 終身会費納入者

平成二十一年四月二十四日から、十月一日受付まで。

〔中十八回〕	石毛 誠	〔中二十一回〕	嶋田卯三郎	〔高四回〕	石井八重子	〔高五回〕	金杉 信夫	〔高九回〕	加瀬 浩己	〔高十回〕	熊谷美津子	〔高十一回〕	山崎 貞	〔高十二回〕	川口 利典	〔高十三回〕	平出 洋子	〔高十四回〕	沢田 壽子	〔高十五回〕	鈴木 明	〔高十六回〕	堀越 正夫	〔高十七回〕	宮野 房子	〔高十八回〕	小川 武夫
〔高十八回〕	草葉 和子	〔高十九回〕	森 幸男	〔高二十回〕	近 信子	〔高二十一回〕	関 常吉	〔高二十二回〕	小山 富男	〔高二十三回〕	中島農夫男	〔高二十四回〕	椎名 光男	〔高二十五回〕	宇井三千男	〔高二十六回〕	在田 幸子	〔高二十七回〕	加瀬 恵子	〔高二十八回〕	来栖 聖一	〔高二十九回〕	若梅 裕子	〔高三十回〕	森 雅昭	〔高三十一回〕	須郷 章
〔高三十九回〕	鈴木由美子	〔高四十二回〕	藤城 公久	〔高四十五回〕	井上満佐美	〔高四十七回〕	林 久美子	〔高五十三回〕	石井 直子	〔高五十六回〕	稗田 哲也	〔高五十八回〕	大門 真弓	〔高六十回〕	小川 尚士	〔高六十二回〕	久古 美佳	〔高六十四回〕	老沼 操	〔高六十六回〕	大木 行男	〔高六十八回〕	鈴木 英司	〔高七十回〕	宇井 照子	〔高七十二回〕	秋山満利子



### 年会費納入者

平成二十一年四月二十四日から、九月十日受付まで。名前の下の数字は納入していただいた年数を示します。

〔高七回〕	大木 伸二	〔高九回〕	大山 富雄	〔高十一回〕	木村 良雄	〔高十二回〕	荒張 文字	〔高十三回〕	渡辺 一生	〔高十六回〕	嶋田 亮一	〔高十七回〕	村越 正躬	〔高十八回〕	実川 良子	〔高二十回〕	鈴木 英司	〔高二十一回〕	宇井 照子	〔高二十三回〕	稲田 和子	〔高二十五回〕	大久保隆章	〔高二十七回〕	秋山満利子	〔高二十九回〕	斉藤 明男
〔高七回〕	半田ひで子	〔高九回〕	大谷かおる	〔高十一回〕	仁平 裕子	〔高十二回〕	岩井 和雄	〔高十三回〕	小沼美津子	〔高十六回〕	宮間 利彦	〔高十七回〕	加瀬 教子	〔高十八回〕	及川 博	〔高二十回〕	林 正俊	〔高二十一回〕	木内 淑子	〔高二十三回〕	河野 幸男	〔高二十五回〕	押田 明裕	〔高二十七回〕	萩原 勉	〔高二十九回〕	浪川 愛子
〔高三十回〕	高橋 孝二	〔高三十二回〕	武井 隆	〔高三十四回〕	村上 静智	〔高三十五回〕	山口 芳宣	〔高三十八回〕	大川信一郎	〔高四十回〕	加藤 正嘉	〔高四十一回〕	崎山 博之	〔高四十二回〕	新行内勝善	〔高四十三回〕	遠藤 正和	〔高四十四回〕	平山 昭彦	〔高四十五回〕	山田 尚樹	〔高四十六回〕	石橋 康	〔高四十七回〕	嶋崎千寿江	〔高四十八回〕	嶋崎千寿江

終身会費納入者

さふさ39号は、全会員には配布されなかったため、40号に39号の会費納入者一覧を転載します。

平成二十年九月二十六日から、二十一年三月二十四日受付まで

Table listing members and their contribution counts. Columns include member names and counts in parentheses. Includes a sub-section for '年会費納入者' (Annual Fee Payers) with a date range from Sept 26, 2008, to March 24, 2009.

編集後記

全員配布の40号をお届けします。紙面も少しずつではありますが、変化してきました。学年合同同窓会の報告が多くなり、それに伴い若い人たちの投稿が増えてきました。自薦・他薦を問わず、こんな仲間がいますなどの原稿を求めます。詳しい記事は次号になると思いますが、匠東会の「故郷を歩こう会」に今年も編集委員から二名が参加しました。60名を超える参加者と秋の飯岡・海上・干潟地区を歩きました。

《第40号編集委員》

Table listing the editorial committee members and their terms. Includes names like 馬淵英夫, 品村晃祥, 平山武彦, etc.

Vertical list of names and counts on the right side of the page, including 岩井 貞夫, 米本美津子, etc.